

2026 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

亀 井 潤 (東京大)

この度、JUA/AUA Academic Exchange Program に選出していただき、3週間にわたりペンシルバニア州フィラデルフィアのペンシルバニア大学での研修とワシントンD.C.で開催されたAUA Annual Meetingに参加させていただきました。

フィラデルフィアはアメリカ独立宣言が採択された歴史的な街であり、高層ビルと歴史的建造物が共存する非常に落ち着いた雰囲気の都市でした。特に今年は1776年のアメリカ独立からちょうど250周年にあたる節目の年であり、街全体に独立250周年を祝う雰囲気が漂っており、歴史を非常に大切にしていることを実感しました。

ペンシルバニア大学には、本院となる大学病院のほか市内に複数の関連施設があり、今回は日替わりで3施設において手術見学をさせていただきました。どの施設でも毎日朝7時30分から夕方まで、悪性腫瘍に対するロボット支援手術から良性疾患に対する手術まで、幅広い手術が行われていました。事前に事務の方が私の見学に対する希望を聞いてくださり、手術予定に合わせて見学施設や担当医を調整していただいたおかげで、研修期間中にロボット支援手術のみならず、下部尿路機能障害や機能再建に関連する手術まで、実に多彩な手術を見学することができました。どの手術においても、スタッフ医師の指導のもとでレジデントが非常に積極的に執刀していたことが印象的でした。レジデントはどの先生もパワフルで朝早くから非常にエネルギーに働いているだけでなく、日々自主的に勉強に取り組んでおり、その熱

意と向上心に強い刺激を受けました。

ロボット支援手術に関しては、2部屋のda Vinciを用いてRARPやRAPNであれば1日4~6件の手術が行われていました。すべてダブルコンソールで行われ、指導医が各手順を細かく指導しながらチーフレジデントが執刀していました。自施設の手術とどのような点が異なるか、自分ならどのように指導するかという観点を意識しながら見学を行い、各指導医が重視しているポイントや工夫について積極的に質問・議論することで、これまで自分自身が行ってきた手術手技や教育方法を改めて見直すいい機会となりました。

ロボット支援手術以外にも、前立腺肥大症に対するアクアブレーション、人工尿道括約筋植込み術、陰茎プロステーシス挿入術、尿道形成術、陰閉鎖術など、短期間の滞在にも関わらず非常に幅広い手術を見学する機会に恵まれました。日本では実際に見学できる機会が少ない手術を、各分野のエキスパートの先生方の解説を受けながら見学できたことは極めて貴重な経験であり、多大な刺激を受けました。

また、週1回朝6時30分からwebで開催されているペンシルバニア大学泌尿器科カンファレンスにも参加させていただきました。これまでの自身の研究について発表する機会もいただきました。英語での30分間のプレゼンテーションは非常に緊張しましたが、有意義な質問やコメントをいただき、活発な議論を通じて貴重な経験となりました。

休日は平日の忙しさを忘れて市内観光や美術館巡りを楽しみました。世界的に有名なフィラデルフィア・オー



写真1 研修施設の1つのPennsylvania Hospital. 米国で最初に作られた病院で、今年開院275年を迎える歴史ある病院です



写真2 Thomas J. Guzzo 教授と手術室で



写真3 チーフレジデントの Dr. John A. Sobieski (左)
とレジデントの Dr. David Ostrowski (右) と
レジデント室で

ケストラの演奏会にも足を運ぶことができ、歴史・芸術・文化に触れながらフィラデルフィアという街の魅力を満喫しました。

今回の研修を通じて手術手技や教育体制を学ぶだけでなく、海外の医師との交流を通じて多くの刺激と学びを得ることができました。今回得られた経験を今後の臨床・研究・教育活動に生かし、さらに精進していきたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった JUA, AUA の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、ご推薦いただきました東京大学の久米春喜教授、および忙しい業務の中、快く送り出していただいた医局員の皆様に心より御礼申し上げます。